

「JIRCAS国際シンポジウム2022」をハイブリッド開催 —持続可能な食料システムにおける零細漁業と養殖業の役割—

ポイント

- ・ JIRCAS 国際シンポジウム 2022 「持続可能な食料システムにおける零細漁業と養殖業の役割」を令和 4 年 11 月 22 日（火）にハイブリッド開催
- ・ 持続可能な食料システムにおける零細漁業と養殖業の役割の重要性と、持続性と生産性向上を両立する科学技術イノベーション実装の現状と課題について議論

概要

国際農研は、令和 4 年 11 月 22 日（火）に「持続可能な食料システムにおける零細漁業と養殖業の役割」と題した JIRCAS 国際シンポジウム 2022 を、ハイブリッド（一橋大学一橋講堂およびオンライン）で開催します。

2050 年までに世界人口が 100 億人に増加すると予測される中、気候変動や生物多様性喪失を回避しつつ、誰も取り残さずに食料栄養安全保障を確保するための持続的な食料システムの在り方が問われています。この背景の中、「ブルーフード（魚介・海藻類を含む水産食品）」の重要性が注目されています。同時に、人類にとって、水産食品は健康な食生活に欠かせず文化的にも極めて重要で、この中で小規模な漁業・養殖従業者は大きな役割を果たしています。国連は食料システム・生業・文化・環境において小規模漁業・養殖従事者が果たす役割に光を当てることによるポジティブな波及効果を期待して、2022 年「零細漁業と養殖の国際年」と決めました。

とりわけ世界の漁業・養殖生産量の 75%以上を占めるアジアでは、零細漁民・養殖業従事者が多数を占め、この分野の産業振興は貧困解決・経済開発にとって中心的な役割を果たしています。一方、零細漁民・養殖はローカルな環境に大きく規定され、それぞれ異なる技術的課題に直面しています。食料・栄養安全保障と強靱かつ誰も取り残さない持続的な漁業・養殖業の発展を実現するため、科学技術イノベーション振興に向けた関係者の教訓・経験の共有が望まれます。

本シンポジウムでは、2021 年国連食料システムサミットと 2022 年零細漁業と養殖の国際年における議論を背景に、持続可能な食料システムにおける零細漁業と養殖業の役割の重要性と、持続性と生産性向上を両立する科学技術イノベーション実装の現状と課題について、共通認識を形成し、国際共同研究の方向性について意見交換の機会を提供します。

JIRCAS 国際シンポジウム 2022 の開催について

1. 開催日時：令和4年11月22日（火）13:00～16:15
2. 開催方法：ハイブリッド（「一橋大学一橋講堂」および「オンライン」）
一橋大学一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋 2-1-2）
 - * 一橋講堂では150名までを予定
3. 申込方法：国際農研のホームページからお申し込み下さい。
URL: https://www.jircas.go.jp/ja/symposium/2022/e20221122_jircas/entry
(申込締切:令和4年11月18日（金）16:00)
4. 使用言語：日本語・英語（同時通訳あり）
5. 参加費：無料（どなたでも参加できます）
 - * 会場参加の方には、講演要旨集を配布いたします。また、Q&Aセッションにも参加いただけます。

問い合わせ先

国際農研（茨城県つくば市）理事長 小山 修

JIRCAS 国際シンポジウム 2022 実行委員長：

情報広報室 プロジェクトリーダー 金森 紀仁

広報担当者：情報広報室長 大森 圭祐

Tel：029-838-6708 FAX：029-838-6337

プレス用 e-mail：koho-jircas@ml.affrc.go.jp

本資料は、農政クラブ、農林記者会、農業技術クラブ、水産庁記者クラブ、筑波研究学園都市記者会に配付しています。

※国際農研（こくさいのうけん）は、国立研究開発法人 国際農林水産業研究センターのコミュニケーションネームです。
新聞、TV等の報道でも当センターの名称としては「国際農研」のご使用をお願い申し上げます。

JIRCAS
国際シンポジウム
2022



持続可能な 食料システムにおける 零細漁業と 養殖業の役割

開催日時 2022年11月22日(火)
13:00 ~ 16:15 (受付開始 12:30 ~ 13:00)

時間	内容	演者
13:00 ~	開会セレモニー	
13:10 ~ 13:50	基調講演 持続可能な食料システムにおける漁業と養殖業の役割	八木 信行 (東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)
	基調講演 水産食料システムに対する全体論的かつ栄養学的に配慮したアプローチの開発	Shakuntala Haraksingh Thilsted (ワールドフィッシュ 栄養・公衆衛生担当グローバルリーダー)
	セッション1 持続可能な食料システムにおける水産養殖の課題	
13:55 ~ 14:40	講演 1-1 東南アジアの持続的食料システムにおける漁業・養殖業の課題	宮田 勉 (国際農研 水産領域長)
	講演 1-2 日本における持続可能な養殖種苗の課題	嶋山 一孝 (水産研究・教育機構 水産技術研究開発生産技術部長)
	講演 1-3 温室効果ガス排出削減のための海藻利用の可能性	Jeffrey T. Wright (ツスマニア大学 海洋・南極研究所 准教授)
	セッション2 漁業・養殖業の持続可能性と生産性を高めるための研究と応用	
14:40 ~ 15:25	講演 2-1 熱帯モンスーン域における二枚貝の持続的養殖技術開発	以本 達也 (国際農研 水産領域 主任研究員)
	講演 2-2 熱帯地方における栄養不足を改善するための小型在来魚種の増加と利用	森岡 伸介 (人間環境大学 環境科学部 教授)
	講演 2-3 ブラックタイガー資源の増殖による零細漁業の改善 ～マングローブ河口域における地域社会一体型のアプローチ～	Jon P. Altamirano (東南アジア漁業研究センター 養殖システム・水産生物科長)
15:35 ~ 16:10	パネルディスカッション	進行役: Marcy N. Wilder (国際農研 水産領域プロジェクトリーダー)
16:10 ~ 16:15	閉会	

問い合わせ先
国際農研 情報広報室
住所 茨城県つくば市大わし1-1
電話 029-838-6708
Email koho-jircas@m.laffrc.go.jp





**零細漁業・養殖業
の国際年
2022**